

## 【9月補正予算案知事記者会見】 9月4日（水）

SAGA2024 会期前競技が、明日の体操競技から始まる。新しい大会として、県全体で盛り上げたい。関係各位のご協力をお願いする。

佐賀駅以西でのICカードの利用開始が、10月3日始発からと決まった。利用できるのは、佐賀駅－佐世保駅間、大村線のハウステンボス駅まで。会期前競技が始まるまでにできればよかったが、総合開会式の10月5日には間に合った。

バルーンフェスタ開催時の臨時駅、バルーンさが駅でも利用可能。

10月3日、武雄温泉駅にて、佐賀バルナーズの角田太輝選手を迎え、利用エリア拡大セレモニーを行う。さがデザインと連携したオリジナルICカードの発表も行う。

### ● 令和6年度9月補正予算案

9月補正は87億円の増額、補正後の予算は5,327億円。

87億円の内訳は、通常補正分が11億円、財政的な補正分が76億円。76億円の内訳は、決算剰余金の積立てが48億円、コロナ包括支援金を国庫返納する28億円。

通常補正11億円の内容を説明する。

#### 佐賀県立大学設置に向けて

これまでの経緯は、令和5年2月、「県立大学の基本的な考え方」を公表し、9月に「基本構想の（素案）」を公表した。令和6年1月、「基本構想」を策定し、専門家チームを設置。6月には教育方針の基本的な考え方（案）、施設機能の考え方（案）が示された。

7月23日、設置場所の佐賀市八丁畷佐賀総合庁舎敷地内を発表。本日は、関連予算を発表する。

#### ～新しい時代をひらく学びを、SAGAから～

場所が決まり、「施設機能の考え方」が具現化できた。まず、目指すものは、

- ・学生の主体的な学びを重視。
- ・カリキュラムや授業形態に合わせた弾力的な運用。
- ・県全体を学びのフィールドとし、地域との接点を多くもつ。

総合庁舎の本館を改修し、南側の車庫と別館は解体し新設校舎を造る。建物内外のつながりを意識したオープンスペース等により、街と大学のつながりを生み出す空間づくりを行う。

予算は、設計者の選定に関する経費が500万円。既存建物の改修、校舎新築のための設計業務を債務負担行為として6.6億円。令和8年度にかけて設計業務等、令和9年度から改修と新築工事を行う。令和11年4月には、改修校舎が利用可能となり開学を予定。新校舎の利用は、令和12年4月を想定。早期開学に向け、着実に歩み続けたい。

総合庁舎内の材料試験センターは、佐賀県工業技術センター敷地内へ移転するため、整備に必要な設計費を計上した。

### 中小企業の賃金UPと成長の実現

佐賀県は、東部地域の人材が福岡県に流出する問題があり、福岡県との賃金差を縮小するのが課題だった。今回は、最低賃金を過去最大56円アップ。福岡県に次ぎ、九州単独2位。目安額より6円多く、九州では1位タイ。しかし、福岡県との差は36円。関東で隣接する東京都と神奈川県は1円差。改善の余地が大いにある。

県では、賃金UPプロジェクトとして、合理的な経営ができるよう企業の生産性向上を支援。賃金アップとセットで企業の収益増を支援してきた。

第1弾で204事業者、第2弾は660事業者が活用。第3弾は、中小企業向け支援。また、従業員がいない1人経営の会社にも支援する。どちらも補助率2/3。

生産性向上を賃上げとセットで行い、豊かさへの連鎖につなげたい。

### 企業のカスハラ対策を支援

カスタマーハラメントは、顧客からの暴行、脅迫、不当な要求などの著しい迷惑行為で人を傷つけること。近年、社会的関心も高まっている。

UAゼンセンの調査では、約5割の労働者がカスハラを受けているとの結果。県内でも、雇用主が対応に苦慮していると聞く。これは、公務員も同じ。県や市町の職員は、住民の声を聞くことが多い。電話を長時間切ってもらえない、同じ人が何度も訪ねてくるなど。民間事業者はお客様の声を、行政は住民の意見を大切にしたいが、過度な要求は人材定着にも影響を及ぼし、働く人を傷つけてしまう。

労働者が安心して働ける環境整備のプロジェクトを立ち上げる。セミナーや個別相談会などの経費を予算化した。また、消費者への意識啓発として、出前講座も計画。

10月までに、カスハラへの方針を対応マニュアルとして策定したい。

### 在住外国人の日本語力向上を支援

外国人との関わりは、年代と共に変化してきた。昭和の頃は親善交流、徐々にビジネス化・観光化し、現在では職場や地域に欠かせない担い手としての側面が強まった。共に働く仲間として多文化共生に取り組みたい。

県内の在住外国人は、10年前の2倍になり1万人を突破。みんなで心地よく暮らせる佐賀を目指す。外国人の皆さんが、日本語でコミュニケーションがとれるよう補助メニューを加えた。永住する人も多いため、共に支えあいながら生きる社会をつくりたい。

### SSP構想の新たなチャレンジ

既に予算化されている事業。企業版ふるさと納税などを活用し、サガン鳥栖のU-15の練習グラウンドを整備する。もとは県の土地だった産業技術総合研究所の隣地を国から返してもらい整備を進めている。

今回は、SSP構想の一環として、スポーツ医科学施設を整備する。民間のスポーツ整形外科が入居し、賃料収入をグラウンド維持管理費に充てる。アスリートに還元される形になる。SSP構想のモデル施設として、設計予算と債務負担行為も含め計上した。

### 障害のある方などにわくわくな体験をして欲しい

福祉の現場を訪れる中で、障害等で家にいる方が外に出るきっかけに、プロスポーツ観戦ができないかという声があった。家族や支援者も一緒に観戦できるよう、福祉関係者と共に事業を立ち上げる。

全障スポの開催にあたり、団体スポーツへの参加を呼びかけた。初参加の選手たちから、「やりがいがあり日々充実するようになった」という声もある。今後もスポーツを通して何らかのフィールドを作り、参加してもらえるようにしたい。

### 佐賀から世界へ 海洋プラ問題の解決に向け キックオフ！

海に流出する海洋プラは、年間約800万トン。2050年には海洋中の魚の量を超える試算もある。特に、佐賀・長崎は、大陸方面からのプラスチックごみが漂着し堆積する。波戸岬から世界の海を考える拠点「世界海洋プラスチックセンター（仮称）」を設計中。令和8年度にオープン予定。

今回予算化したのは、国際シンポジウムの開催。令和7年2月頃、国内外の研究者、政府機関の職員を唐津に招く。海洋プラ問題を、ローカルから考えるという趣旨。実際に波戸岬に堆積している海洋プラを見てワークショップを開き、その解決方法も発信したい。